

LED工作教室の作品をクリスマスツリーに飾りました。
今年も各所に飾る予定です。



左上から：瀧リリカさん(4年)、瀧美優さん(6年)、久米田滉斗くん(5年)
左下から：佐藤穂乃香さん(2年)、瀬尾悠月さん(1年)、今野笑瑠捺さん(3年)

浪江小学校は、ここ二本松市下川崎で再開して4シーズンを迎えました。今年は新入生が2名入学、さらに津島小学校も再開し、新たなスタートを切りました。

2校では総合的な学習の時間を活用して「ふるさとなみえ科」を立ち上げ、浪江町のよさを学ぶ機会を充実させています。今年度は「請戸の安波祭」について調べ、「なみえ子ども新聞」にまとめたり、仮設住宅を訪問して浪江の方とつながる活動をしたりしています。また、なみえ焼麺子ども大使としてB-1グランプリにも参加しました。そして、11月には十日市祭で、新しい和太鼓の曲を発表する予定です。

今回、双葉郡児童作文コンクールに出品された各学年1点の作品すべてが、特選、準特選に入賞しました。子どもたちの家庭生活や学校生活の中で体験・感動したことが、素直な言葉で表現されていますのでご紹介します。

*今回は、1年生から3年生の作品をご紹介します。

双葉郡 児童作文 コンクール 入賞作品を紹介します

浪江小学校 TEL 024(567)3970
津島小学校 TEL 024(567)6860

わたしのおねえちゃん

一ねん せおゆづき

「だいじょうぶ。だいじょうぶだからね。」
おねえちゃんは、こういって、いつもわたしにげんきをくれます。がっこうのしゅくはくかつどうで、はじめておとまりをするとき、わたしは、よるのトイレがしんばいでした。いくまえからずっとこまっていたら、おねえちゃんが、
「だいじょうぶ。おねえちゃんがいるからね。」
といてくれました。そして、おばあちゃんのいえに、おとまりのれんしゅうにつれていってくれました。それで、がっこうのおとまりは、だいせいこうでした。とつてもたのしく、やっぱりおねえちゃんのいうとおりだなとおもいました。
すいせいぎろくかいのときも、わたしが、さかなひろいで一び

きしかとれなくて泣いていたら、「だいじょうぶ。だいじょうぶ。一びぎとれたじゃん。がんばったね。すいよ。」
といて、あたまをなでてくれました。そしたら、なみだがとまりました。おねえちゃんの「だいじょうぶ」は、まるでまほうのことばみたいなんです。またこのつぎ、がんばろうとおもいました。
おねえちゃんは、こわいときもありました。それは、しゅくだいがわからないときとか、いうことをきかないときです。
「ちゃんとやらなきゃだめ。」と、こわくいます。目が、すぐおこっています。わたしは、しかたなくいうことをききます。しゅくだいは、やらなきゃいけないので、おねえちゃんのいうことがたまたまはわかっています。でも、せんせいじやないのに、そんなにこわくいわなくてもいいじゃんとおもいます。
おねえちゃんは、おもしろいところもあります。それは、手をたたきながら大わらいするところです。このまえ、テレビに

わたしがダンスをしているのがうつったとき、
「ゆづき、おもしろい。」
といて、大わらいしました。おねえちゃんがわらったら、ママもわたしも大わらいになってしまいました。おねえちゃんがわらうと、まわりもみんなたのしくなります。
おねえちゃんは、大きくなったらようちえんのせんせいになりたいといっています。それで、ときどきがっこうごっこをします。おしえるのがとてもじょうずなので、わたしはびつたりだともおもいます。
わたしも、おねえちゃんみたいにになりたいです。わたしには、いもうともおとうともいないので、おねえちゃんにはなれないのがざんねんです。でも、らいねん二ねんせいになったら、あたらしい一ねんせいのいいおねえさんになりたいです。一ねんせいが、しんばいしないように、「だいじょうぶ。だいじょうぶだからね。」
と、いってあげたいです。

おうえんの力

二年 佐藤ほのか

「やった。二十五メートルおよげたぞ。」
およぎきつたら、いつきにつかれが出てきた。
「ほのかちゃん、がんばったね。」
先生にほめられたら、つかれがふつとんだ。そして、目の前をおよぐきゆう生に、
「がんばれ。」
と、ありつたけの大きなこえをかけた。
二年生になって、はじめての水えい学しゅう。わたしは水えいがとくいではなかったで、とてもふあんだった。大きなプールを見ていると、だんだんこわくなってきた。じゅんびうんどうをして、シャワーをあびるころには、心ぞうがどきどきしていた。プールに入ると先生が、
「水にもぐってみよう。もぐれない人は、かおを水につけてみよう。」

と言った。わたしは、こわくて水にかおをつけられなかった。まわりを見ると、同じゆう生のしんじくんは、水の中にもぐっていた。一年生の二人も、もぐつたりかおをつけたりしていた。できないのは、わたしだけ。かなしくなった。でも、その時に、
「ほのかちゃんだったら、ぜつたいできるよ。」
と、みんなが言ってくれた。そのことを聞いて、こわかったけど、いきをいっばいすつて、目をつぶつて、思い切って顔を水につけてみた。
「やった。できた。」
二回目のれんしゅうのころには、水えいがたのしくなってきた。気がつくと、水にもぐるのもこわくなくなっていた。先生としんじくんといっしょに、けのびやビートばんバ足のれんしゅうをするのがたのしくなつて、一生けんめいれんしゅうした。だから、水えいの時間がおわると、つかれておなかのすいて、いつもぐつたりだった。
水えい学しゅうさいこの日は、

記ろく会の目だ。二年生のしゅ目は、ビートばんバ足。わたしは朝からわくわくしていた。
「よい、ドン。」
の合で、いきをいっばいすつて、かべを思いつ切りけて、およぎはじめた。と中で、水をのんでくるしくなつた。足がつきそうになつた時、みんなのおうえんする声が聞こえた。そして、となりのコースでおよいでいるしんじくんが、ゴールしたのが見えた。(わたしもぜつたいゴールするんだ。)と思つて、さいこの力をふりしぼつた。
校長先生から金メダルをもらった。とてもうれしかった。たんにんの先生からは、
「おうえん、がんばつたね。」
と、ほめられた。もつとうれしくなつた。みんなのおうえんがあつたから、二十五メートルおよぐことができた。つらくてもぐるしくても、あきらめずに、さいごまでがんばつてよかった。六年生で、百メートルおよいだ人がいた。わたしも六年生になつたら、百メートルおよぎたいと思つた。

みんながおうえんだん

三年 今野笑瑠^{えるな}捺

「くるしいよう。もう、やめようかなあ。」

思いきってちようせんした五十メートルクロールだけど、もうだめかもしれないとあきらめかけていました。ちようどその時、みんなの声が聞こえてきました。

「えるなちゃん、がんばれ。」
「ようしよに練習した五・六年生の声も聞こえます。」

「がんばれ。がんばれ。」
「ようし。さいごまでがんばろう。」わたしはむちゅうで泳ぎました。

「あともう少し。」
ゴールが近づくと、泳ぎ方を教えてくれた先生たちの声も大きくなってきました。プールのその線が一本一本近づいてきます。あともう少し手をのばせば――
「やったあ。五十メートルたっせい。」

ついに五十メートル泳げました。まわりを見ると、みんなのはくしゅとえ顔でいっぱいでした。

自分でもびつくりするほどうれしいです。「でも、どうしてできたのかなあ。この前、やっと二十五メートル泳げるようになったばかりなのに。」うれしいことにはかわらないけど、こんな力はどこから生まれてくるのか、ふしぎな気持ちになりました。

その日のきゅう食の時間、いつものように全校生できゅう食を食べていると、「ハートの実」がしようかいされました。「ハートの実」は、友だちの良いところやがんばっているところを書いて、つたえ合っている実です。

さっそく、今日の水泳記録く会のがんばった人たちへのメッセージがしようかいされました。わたしも、いっしよに練習をした六年生にメッセージを書きました。わたしよりもずっとたくさん泳いでいたからです。聞いている六年生もうれしそうでした。その時わたしは、思い出しました。そういえば、わたしがス

ポーツテストのシャトルランで、今までが一番良い記録を出した時も、同じくう生のみきさんがハートの実に、「えるなちゃんすごいね」「がんばったね」って書いてくれたこと。あの時も、みんなが自分のことのようによろこんでくれたこと。

「わたしの力って、みんなのたくさんのおうえんから生まれるのかなあ。」わたしはそんな気がしてきました。そして、わたしがこまっていた時も、友だちのおうえんが助けてくれたことに気がつきました。

わたしが二年生の時、しゅくはく学習で、はじめて家族とはなれてとまるから、さみしくてないていると、

「だいじょうぶだよ。いっしよにねようね。」
と、三年生のリリカさんがやさしくなぐさめてくれました。そして朝まで、いっしよにねてくれました。わたしは、さみしい気持ちになくなって、ぐっすりねることができました。

そのことがわたしはとてもう

れしくて、下きゅう生が入学してきたら、やさしくしてあげようと思っていました。だから今は、一年生にやさしくしています。きゅう食の時、お魚が食べづらそうにしていた時には、魚の身をほぐしてあげました。休み時間にけがをした時には、ほけん室につれて行ってあげました。何か分からないことがあった時には、やさしく教えてあげています。

わたしの学校の人たちは、だれかががんばっているときには、いつも本気でおうえんするし、だれかがなっていたらすくになぐさめてくれる人たちばかりです。

だから、わたしの学校の友だちみんなが、おうえんだんのようにです。わたしもおうえんだんになつて、みんなが、くるしいことがあっても負けない気持ちや、もつとがんばろうという気持ちがあふえるように、はげましたり助けてあげたりしたいです。そして、自分も友だちも、元気やゆう気を、たくさんあげたりもらったりしながら、生活していくことができたらしいです。